

令和7年度 長岡京市南地域包括支援センター事業計画【案】

【基本理念】	【柱】	【めざす姿】	【令和7年度 包括目標】	【令和7年度 アクションプラン（行動計画）】
「いきいき・あんしん」く支えあいのまちづくり」	1. 高齢期を自分らしく暮らせている	健康づくりや介護予防ができる環境の中で主体的に取り組んでいる	① 【権利擁護と支援】 高齢者と家族の権利や尊厳を守り、必要な時に必要な支援を受けられるようにする。	地域住民が安心して暮らせるように、包括の活動を知ってもらうとともに、支援を行う。
	2. 介護等が必要になったときも安心して暮らせている	本人の意思に基づきいきいきと社会参画している		① 民生委員の訪問時同行しパンフレットを渡し顔を合わせることで、気軽に相談できる相談窓口として知ってもらう（未組織地域から中心に回り、3年で(R9までに)全地域を訪問する）。 ② 健康フェスタの未来場者について民生委員と情報共有し、必要に応じて個別訪問する。 ③ ケアプラン点検に参加しその人が目指す自立した生活を送れるよう要支援認定者及び総合事業対象者の支援をし介護保険サービスからの卒業を目指す。 ④ 虐待ケースには速やかに対応する。成年後見制度の必要なケースについては中核機関等と連携して利用に結びつける。 ⑤ 成年後見制度・意思決定支援についてスキルアップするために研修や勉強会に参加する。
		権利や尊厳が守られている	② 【健康づくり】 高齢者一人ひとりが介護予防や認知症への理解を深め、主体的に健康づくりに取り組めるようにする。	いくつになっても楽しめる地域を目指す。
		介護等の必要なサービスを安心して利用できている	③ 【連携・協力】 高齢者支援に関わる人々が、それぞれの役割を果たしながら協力できる体制を築く。	⑥ 地域の老人会やサロン、出張講座を通じて多くの人に介護予防や健康づくりに関心を持ってもらう。（1年間で12回目標。）健康スポットを案内することで、介護予防につなげる。 ⑦ 毎月なかの邸カフェを開催する。オレンジルームと協働し認知症の方の居場所作りをする。 ⑧ 認知症ネットワーク会議に参加し情報共有、地域の啓発活動に参加する。認知症になっても住みやすい地域づくりを目指して関係機関と参画する。（必要時）
		介護に従事する人材が、いきいきと働ける環境づくりが進んでいる		高齢者に関わる人たちが抱え込まず情報共有ができていつでも支援できる包括を目指す。
		誰もが互いに協力しあい、共に暮らす地域社会が築かれている	④ 【支え合い】 地域に暮らす一人ひとりが、お互いに支え合える地域を作る。	⑨ 日頃から密にコミュニケーションをとることで、高齢者に携わる人たちが一人で考え込まずに気軽に相談しやすい関係性を作る。 ⑩ 毎月地域ケアマネジメント会議を開催し関係機関と情報共有するとともに助言をもらう。 ⑪ ケアマネジャーを含む関係者から相談のあったケースについて関係機関に参加を依頼し、多職種と情報共有する。意見交換や助言を受ける中、更なる自立支援、重度化防止ひいては高齢者の生活の質の向上を目指す目的で会議を随時開催する。（地域ケア個別会議） ⑫ 業務の効率化によりICTを活用することによっていきいきと働ける環境づくりを目指す。
		認知症の人や家族が安心して生活できている		住民が主体となり、関係機関や地域が見守り支えあう地域づくりを目指す。
		安心して地域生活が継続できる見守りの環境が整備されている		⑬ 地域ケアマネジメント会議や地域ケア個別会議から共通課題を抽出して、関係機関や地域住民と情報共有し、課題解決のための方策を検討する地域ケア推進会議を開催する。（年1回） ⑭ 毎月民生委員の定例会に出席し、お互いの活動を知る。また、地域の高齢者について情報共有する。 ⑮ 担当地域の地域密着型サービス運営推進会議に参加して情報共有する。（5ヶ所） ⑯ 西光寺の取り組みに参加し子どもから高齢者までの居場所作りに協力する。新たな取り組みとして、西光寺にも参加できない地域の啓発活動を行う。 ⑰ おでかけあんしん見守り事業の啓発活動を行うとともに、搜索模擬訓練に協力する。